

# ご挨拶

## 只見町の将来に向かって 行動するまちづくり

只見町長 渡部 勇夫



明けましておめでとうございます。令和3年の初春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、つつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私は、昨年十一月の町長選挙におきまして、町民の皆様方をはじめ、多くの方々から温かいご支援を賜り、当選の栄に浴し町政を担うこととなり、その職責の重さに身の引き締まる思いであります。皆様からお寄せいただいた信頼と期待に応えるべく、新たな決意と情熱を持って町政執行に取り組む覚悟であります。

さて本町は、人口減少による様々な分野での担い手不足や今後の産業経済活動の停滞・縮小の懸念が不安感になつていふと思えます。特に、高齢や様々な理由で日常生活の支援を必要とされている方々は、医療や介護の心配、日常生活上の不便さやそこから生まれる不安感などがあります。

加えて新型コロナウイルス感染症が、出口の見えない不安感を増幅させています。

本町においては、長年の悲願であった国道289号八十里越の開通やJR只見線の全線再開通を控えております。

国の働き方では、リモート環境整備やデジタル庁の創設など、遠隔地という不利な条件を緩和する環境も整つてまいります。

福島県におきましても次期総合計

画の策定を本年9月に延期し、デジタル化の推進の視点を盛り込む方針を固められました。

このような中、只見町の小学生はユネスコスクールの趣旨である持続可能な社会づくりを勉強しています。これは現状の困難さを嘆くのではなく、将来の只見町の望ましい姿を描き、その上で、今やらなければならぬことは何かを学び、しっかりと将来を見据えて学び、行動しています。

私は、大人であっても只見町の子どものための地域をより良くしたいという姿勢から学びたいと考えています。

さて、背景等を含め様々申し上げましたが、政策目標は、「只見町の将来に向かって行動するまちづくり」であります。

第1に、「みんなが住みたいと思う魅力的なまちづくり」であります。町内のすべての産業の魅力を伝えるために、産業振興策とともに積極的なトックセールスを展開していきます。「只見ユネスコエコパーク」につきましても、その魅力をさらに高め、広く発信すべく努めてまいります。

第2に、「誰もが安心して住めるまちづくり」であります。喫緊の課題となつております朝日診療所の診療体制を立て直すとともに、訪問看護と訪問介護の連携強化と充実を図ってまいります。

また、暮らしに関する総合相談窓口の設置をはじめ、日常生活の支援体制づくりに努めてまいります。

第3に、「関係人口（交流と定住の

中間）を増やすまちづくり」であります。只見町出身者や只見町を応援してくださる方々の声を、町づくりへ反映させるための提案、応援制度の創設とともに、町の総合案内機能と受け入れ態勢（物産販売等）の整備を急ぎます。

第4に、「子どもがたくましく育つ、子育てしやすいまちづくり」であります。子どもの健やかな成長を支援する事業を積極的に実施したいと考えております。

第5に、「みんなに役割があり、活躍の場があるまちづくり」であります。公共事業の確保に努めるとともに、高齢になつても年金収入に上乗せできる仕事の支援づくりを推進してまいります。

只見町が誕生し、六十一年が経ち、人間でいえば還暦を迎えました。改めて私たちの地元は、旧村の地区ではなく只見町であることを意識して、町民の皆様が活躍の場と役割がある町をつくってまいります。

そして、その先に只見町の持続的な発展があることを信じて、本職を懸命に努めてまいりますので、町民の皆様並びに議員各位におかれましては、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

# 新年の

## 住民が参画できる開かれた 議会を目指して

只見町議会議長 大塚 純一郎



明けましておめでとうございます。只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会活動に深いご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、春に町議会議員選挙が行われ、現職七名、元職二名、新人三名からなる新しい議会構成となりました。私も議長の要職につきまして、初めての新年を迎えることになりましたが、その間、町民の皆様から寄せられました温かいご指導やご厚情によりまして、議員各位ともども議会活動に精励できましたことを、改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は一年を通し新型コロナウイルス感染対策に終始した年でありました。一月の中国・武漢市で発生したウイルスは現在も世界中に感染拡大をしております。世界全体の感染者数は、実に「8,800万人」に迫り、死者数は「190万人」になろうとしております。国内での感染者数は「26万人」を突破し、死者数は「3,900人」を超えました。感染拡大は経済活動を大幅に縮小させ、個人消費の激減、企業の倒産、解雇、雇い止めを発生させる等、国民生活に大きな打

撃を与えております。

また、感染リスクによる不安や恐怖、隔離や行動制限によるストレス、感染者や濃厚接触者への誹謗中傷等が後を絶たない状況ですが、一人ひとりが感染拡大防止の為に取り組みを真剣に行わなければなりません。

近年、頻繁に発生する熱波や干ばつ、そして洪水等の異常気象や災害被害を考える時、産業活動によって排出される温室効果ガスによる地球温暖化との関連を否定することは出来ません。温室効果ガス排出量の削減目標達成の為に一層の取り組みが必要であります。

国内外で自然災害も頻発しており、甚大な被害と多くの人命が奪われております。今なお、多くの人々が厳しい状態での生活を余儀なくされており、迅速な復旧、復興と生活の安定を心から願うものであります。

景気は、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限等が影響し、内外需が落ち込み、大きなマイナス成長が予想されております。早期の景気の回復と安定を望むものであります。

さて、我が只見町は、人口減少、少子過疎高齢化に起因した様々な課題が山積しております。課題解決の為に独自の取り組みが求められています。行政は住民に最も身近な存在であり、その役割は大変重要であります。二元代表制の一翼を担う議会とし

ては、通年議会制度を活用し、これまでも行政を監視、牽制するとともに各般の提言を行うなど、その役割を果たして参りましたが、今後も「町民の皆様」との繋がりを大切にし、より皆様の声に耳を研ぎ澄まし、その声を施策に反映することが益々重要になってくると考えております。

今後更に、「住民が参画できる、開かれた議会」を推進するため、議会報告会や一般会議などを通じ情報の共有に努めて参ります。

平成二十六年に登録された世界に誇れる「ユネスコエコパークのまち」として、自然と人間の共生に向け、住民と行政が課題や目標を共有しながら今後の町づくりを進めていくことが最も重要と考えます。

議会と当局は、互いに切磋琢磨しながら町民の意思を尊重し、只見町の発展のために全力を尽くして参りますので、なお一層のご指導とご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして実りある飛躍の年となりますことを祈念し、新年の挨拶といたします。